

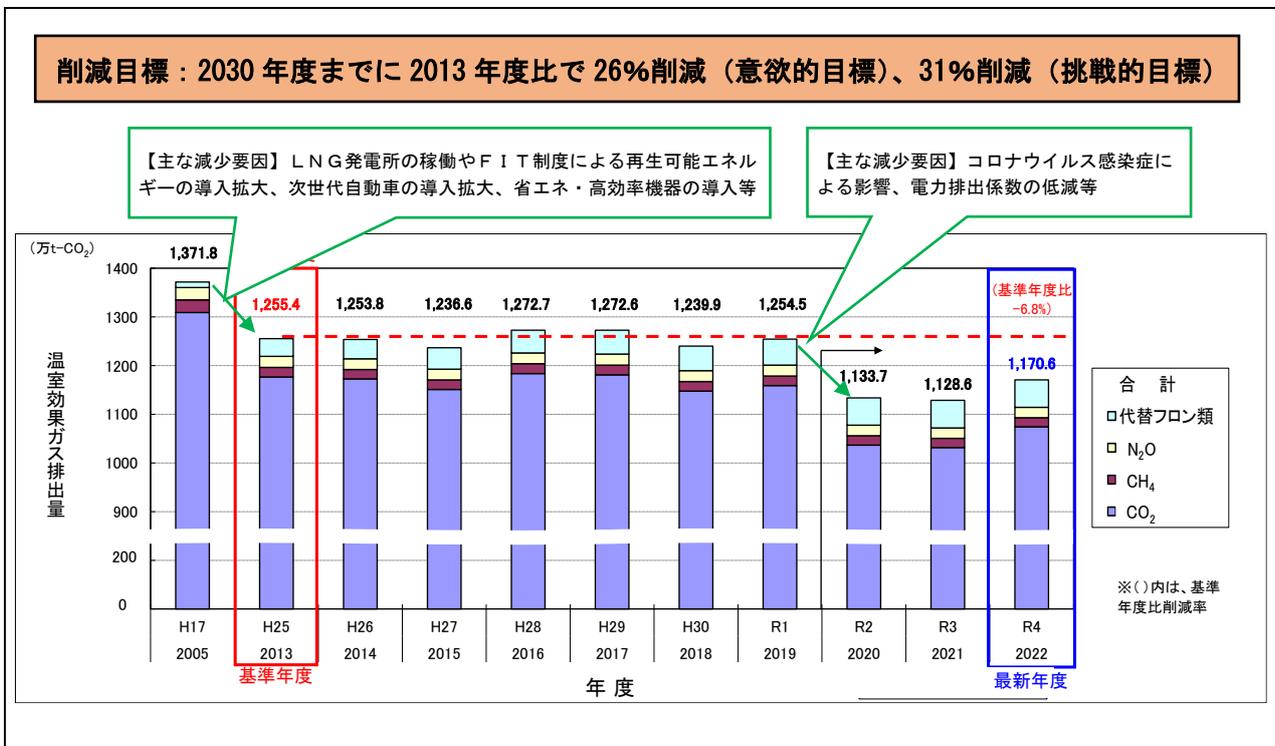
沖縄県の温室効果ガス排出量（2022年度（令和4年度）推計値）

- ✓ 2022年度の温室効果ガス排出量は、1,170.6万トンで、全国の排出量11億3500万トンの1.0%であった。
 - 2005年度（ピーク年度）比：201.2万トン減 14.7%減
 - 2013年度（基準年度）比：84.8万トン減 6.8%減
 - 2020年度（前年度）比：42万トン増 3.7%増

- ✓ ガスの種類別では、二酸化炭素が1,074.3万トン、メタンが18.7万トン、一酸化二窒素が21.3万トン、代替フロン類が56.3万トンであった。
 - 二酸化炭素：前年度比 4.1%増 2013年度比 8.7%減
 - メタン：前年度比 1.6%減 2013年度比 5.6%減
 - 一酸化二窒素：前年度比 0.5%増 2013年度比 5.8%減
 - 代替フロン類：前年度比 0.5%減 2013年度比 54.2%増(※)

※代替フロン類は、全国の排出量の按分値として推計している。

- ✓ 二酸化炭素吸収量は、森林吸収源量、農地土壌炭素吸収量、都市緑化吸収量の合計で17.6万トンと推計され、全国の吸収量の0.4%程度に相当する。（参考値：全国の吸収量 5,020万トン）



- ✓ 2020年度、2021年度に新型コロナウイルスによる影響で減少した排出量が、2022年度は航空旅客運送業や宿泊業等の観光産業の回復により増加に転じたと考えられる。

✓ 部門別二酸化炭素排出量は、経年的に運輸部門の構成比が高いことが特徴。2022年度も運輸部門 34.1%、民生業務部門 23.7%、民生家庭部門 21.4%、産業部門 11.1%の順で高かった。

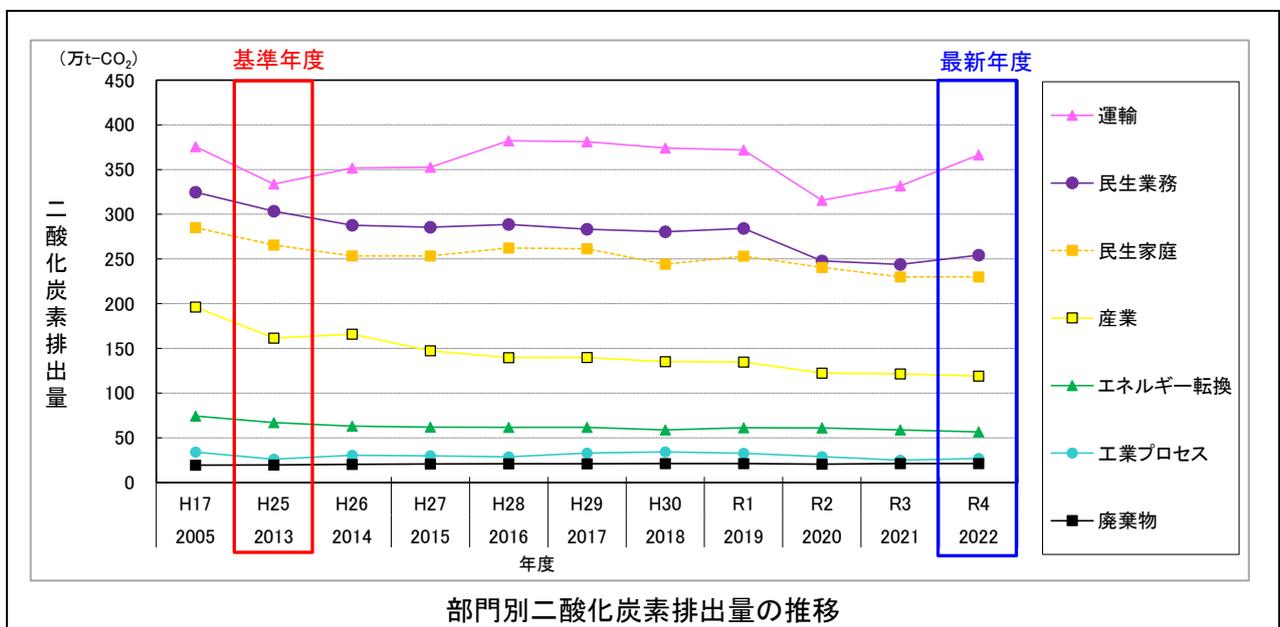
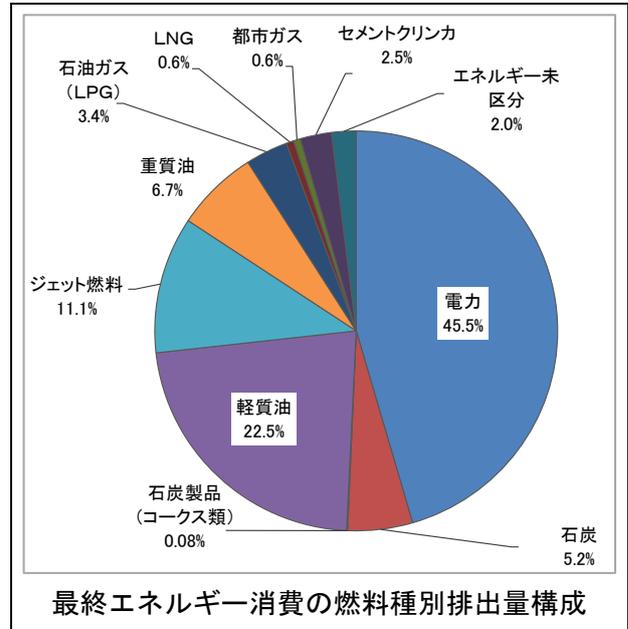
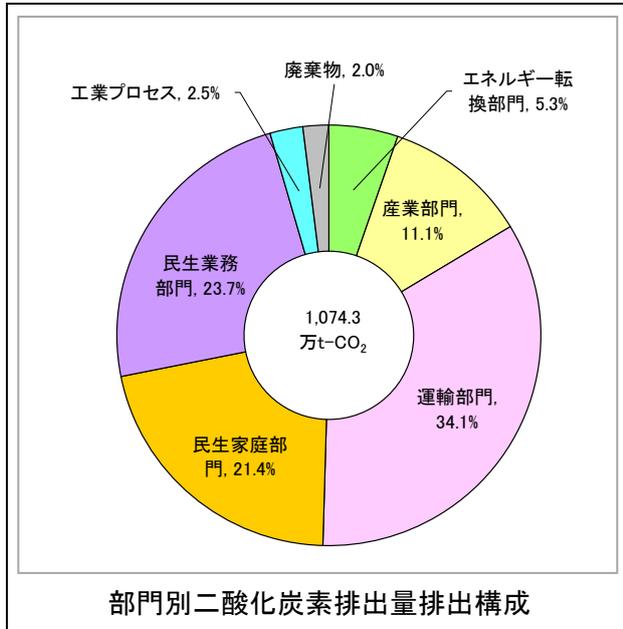
運輸部門：前年度比 10.4%増

民生業務部門：前年度比 4.2%増

民生家庭部門：前年度比 0.1%増

産業部門：前年度比 2.0%減

✓ 最終エネルギー消費の燃料種別二酸化炭素排出量は、電力(45.5%)が最も大きく、次に軽質油(ガソリン、軽油)(22.9%)、ジェット燃料(11.1%)、重質油(6.7%)の順となっている。



✓ まとめ(中期目標の達成に向けて)

本県の2022年度における温室効果ガス排出量は、2005年度のピークと比較して、14.7% (201.2万トン)、基準年度である2013年度比で6.8%(84.8万トン)減少しているが、2021年度比で3.7%(42万トン)増加している。新型コロナウイルスによる影響で2020年度に排出量が減少したが、2022年度は経済活動が回復し、特に運輸部門、民生業務部門における排出量が増加したことにより、全体の排出量も増加に転じた。緩和策のさらなる取組強化が必要である。